

# 全国学力・学習状況調査から見える花巻市の状況

～令和5年度 全国学力・学習状況調査結果と今後の改善の方向性～ (花巻市教育委員会)

令和5年4月18日(火)、小学校6年生(市内662人)、中学校3年生(市内776人)を対象に、国語、算数・数学、英語の教科調査と普段の生活や学習の様子数十項目からなる児童生徒質問紙調査等が実施され、8月1日(火)に文部科学省から全国の結果について公表がありました。

**教科調査**については、コロナ禍で中止になった令和2年度を除いて毎年行われている小・中学校の国語、算数・数学に加え、4年ぶりに実施された中学校英語**すべてで全国・県を上回ることができませんでした**。特に、他の学力調査でも明らかになっている小学校段階の学力低下が年々進行して中学校まで影響し、**小学校算数や中学校数学、英語にあっては全国を上回る設問自体が極僅か若しくは皆無**となるかつてない厳しい状況です。

**児童生徒質問紙調査**については、**小学校で課題が散見**されるものの**中学校を中心に大部分の調査項目で肯定的回答が全国・県を上回る状況**です。**児童生徒の意識の高さを学習結果に結び付ける取組若しくは自己評価基準のレベルアップで継続的な望ましい行動変容を促す取組**が求められます。

教科調査と児童生徒質問紙調査の**クロス集計**においては、これまでに明らかになっている**主体的な学習の重要性が同様に確認**されました。**児童生徒の学びに立ち向かう意欲の日常的な持続、難しいことに挑戦し結果に結び付ける日頃の実践力をいかに進め高めるのがポイント**と考えます。

当市はこれまで、課題の算数・数学、英語の基礎・基本を「Gアップシート」等で定着する取組、学びの目的意識を「漢字検定」「英語検定」等で強化する取組等、学ぶ土台づくりに力を注いできました。しかし、今回は、**基礎的な知識の定着に始まり学習指導要領が求める思考力・判断力・表現力に至るまで極めて大きな課題を突き付けられる結果**になりました。

**算数・数学の基礎・基本を育みつつ論理的な思考力や判断力を測る設問の難化に対応する学習指導、英語の土台を確かなものにしながら実践的な意思疎通の力を身に付ける学習活動**は決して容易ではありません。しかし今こそ、当市の教育の在り様を抜本的に見直す機会と前向きに捉え、まずは学力向上対策の観点から「**令和5年度学力分析のまとめと今後の改善の手立て**」で重視したい**取組事例を提案**します。

## 令和5年度 教科調査等の結果(小学校6年生、中学校3年生)ー全国・県との比較からー

◆ **教科調査の平均正答率** ※正答率は小数点以下を四捨五入して整数値で表示 【単位%】

小学校6年生	国語	算数	中学校3年生	国語	数学	英語
花巻市	66	59	花巻市	69	44	35
岩手県	69	62	岩手県	69	46	37
全国	67	63	全国	70	51	46

【小学校】 **国語、算数とも全国、県を上回ることができず大きな課題**

令和4年度前回調査(【参考資料1】参照)の国語、算数の全国との差と同等も、**令和3年度前々回調査(【参考資料1】参照)以降国語、算数とも全国、県との差が拡大し続ける大きな課題**

全国との差は国語-1%、算数-4%。県との差は国語、算数とも-3%。前回調査の全国との差と比べ国語、算数とも±0ポイント、県との差に比べ国語、算数とも-2ポイント。過去最低の前々回調査の全国との差に比べ国語+1ポイント、算数±0ポイント、県との差に比べ国語、算数とも-2ポイント。

【中学校】 **国語、数学、英語とも全国、県を上回ることができず大きな課題**

**前回調査の全国との差は拡大、特に数学と平成31年度(令和元年度)調査(【参考資料】参照)で初めて実施された英語は全国との差が大きく開いて大きな課題**

全国との差は国語-1%、数学-7%、英語-11%。県との差は国語±0%、数学、英語とも-2%。前回調査の全国との差に比べ国語-3ポイント、数学-4ポイント、県との差に比べ国語、数学とも-1ポ

イント。英語は初めて実施された平成31年度（令和元年度）調査の全国との差に比べー5ポイント、県との差に比べ±0ポイント。

**【参考資料1】 全国学調の教科調査の結果に係る経年データ** ※花巻市HP公表済

中学校数学、英語の学力の課題に加え、ここ数年は小学校の学力低下が進行し、中学校数学、英語のみならず他教科にも影響、令和5年度は小・中学校の多くの教科で過去最低を大きく更新。

●平成28年度調査 小学校の国語、算数や中学校の国語の学力に比べ、中学校の数学、英語の学力引き継ぎが課題

小6	国語A	国語B	算数A	算数B	中3	国語A	国語B	数学A	数学B
花巻市	73	59	78	47	花巻市	76	67	59	41
岩手県	73	60	78	47	岩手県	76	66	58	41
全国	73	58	78	47	全国	76	67	62	44

●平成29年度調査 平成28年度調査に類似する傾向

小6	国語A	国語B	算数A	算数B	中3	国語A	国語B	数学A	数学B
花巻市	77	59	80	45	花巻市	80	73	62	47
岩手県	77	60	81	45	岩手県	78	72	60	45
全国	75	58	79	46	全国	77	72	65	48

●平成30年度調査 初の調査となる理科で小学校、中学校とも概ね良好

小6	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	中3	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
花巻市	74	56	64	52	61	花巻市	77	64	63	45	66
岩手県	74	57	63	51	61	岩手県	76	61	62	43	65
全国	71	55	64	52	60	全国	76	61	66	47	66

●平成31年度（令和元年度）調査 中学校の数学、初の調査となる英語で深刻な状況

小6	国語	算数	中3	国語	数学	英語
花巻市	68	67	花巻市	74	54	50
岩手県	67	66	岩手県	74	56	52
全国	64	67	全国	73	60	56

●令和3年度調査（前々回調査） 小学校の国語、算数で急激に深刻な状況 ※令和2年度コロナ禍中止

小6	国語	算数	中3	国語	数学
花巻市	63	66	花巻市	66	53
岩手県	65	68	岩手県	66	54
全国	65	70	全国	65	57

●令和4年度調査（前回調査） 3年ぶり2回目の調査となる理科で小学校、中学校とも課題

小6	国語	算数	理科	中3	国語	数学	理科
花巻市	66	61	61	花巻市	71	48	47
岩手県	67	62	63	岩手県	70	49	48
全国	66	63	63	全国	69	51	49

●令和5年度調査（今回調査） 中学校の数学、英語でかつてない極めて深刻な状況

小6	国語	算数	中3	国語	数学	英語
花巻市	66	59	花巻市	69	44	35
岩手県	69	62	岩手県	69	46	37
全国	67	63	全国	70	51	46

◆ 教科毎の全国を上回る設問数の割合

【単位%】

【小学校】 国語は半数以上、算数は9割以上の設問で全国を下回り課題

全国を5%以上上回る設問は国語7%、算数0%。  
全国を5%以上下回る設問は、国語14%、算数38%。

【中学校】 国語は7割近くの設問で全国を上回るも、数学、英語は皆無で課題

全国を5%以上上回る設問は国語、数学、英語とも0%。全国を5%以上下回る設問は、国語0%、数学73%、英語88%。

項目	学年・教科		中学校3年生		
	国語	算数	国語	数学	英語
全国を上回る設問数の割合	43	6	67	0	0
内訳					
+10%以上					
+5%以上	7				
+3%以上	7		40		
0%以上	29	6	27		
0%未満	21	38	27	13	
-3%以下	21	19	7	13	12
-5%以下	14	38		53	35
-10%以下				20	53

【参考資料2】 全国学調の全国を上回った設問数の割合に係る経年データ ※花巻市HP公表済

課題が顕在化した数年間の全国を上回った設問数の割合は、すべての校種教科で下がり続ける状況。

●平成31（令和元）年度調査

項目	学年・教科		小6		中3	
	国語	算数	国語	算数	国語	数学
全国を上回る設問数の割合	100	57	80		6	5
内訳						
+5%以上	28					
-5%以下					44	43

●令和3年度調査（前々回調査）

項目	学年・教科		小6		中3	
	国語	算数	国語	算数	国語	数学
全国を上回る設問数の割合	29	6	72		13	
内訳						
+5%以上						
-5%以下	14	37				31

●令和4年度調査（前回調査）

項目	学年・教科			中3		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
全国を上回る設問数の割合	43	19	24	79	29	14
内訳						
+5%以上	7			14		5
-5%以下		25	12		36	14

●令和5年度調査（今回調査）

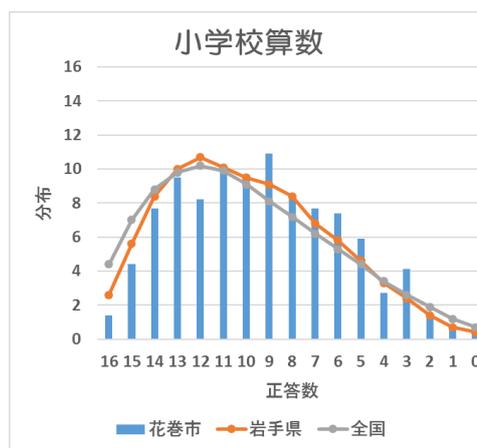
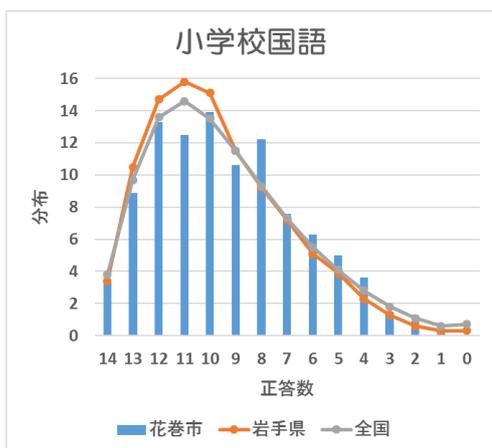
項目	学年・教科		中学校3年生		
	国語	算数	国語	数学	英語
全国を上回る設問数の割合	43	6	67	0	0
内訳					
+5%以上	7				
-5%以下	14	38		73	88

◆ 教科毎の正答数別児童生徒の分布※グラフの縦軸は正答数別の児童生徒の割合

【単位%】

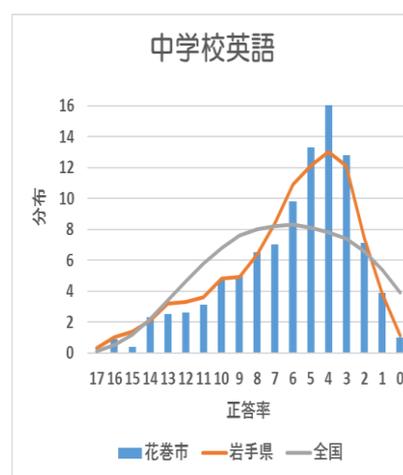
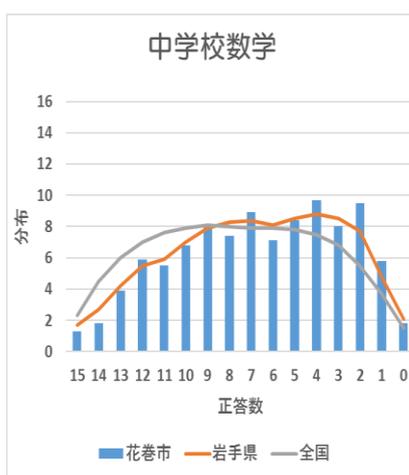
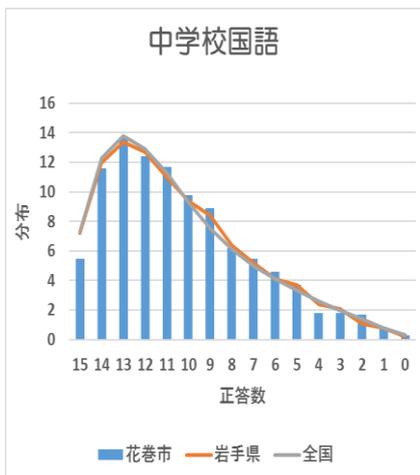
【小学校】 国語、算数とも上位層がくぼみ、下位層に膨らみ

国語、算数とも全国、県に比べて上位層のくぼみと下位層の膨らみが顕著。



【中学校】 国語に比べ、数学、英語は上位層がくぼみ、下位層に膨らみ

国語は全国、県と類似の分布、数学、英語は全国に比べて県とともに上位層が欠落して下位層が突出、英語は特に顕著。



【参考資料3】 全国学調の教科毎の正答数別児童生徒の分布に係る経年データ ※花巻市HP公表済

課題が顕在化した数年間の正答数別児童生徒の分布は、すべての校種教科で上位層減少と下位層増加が進行。

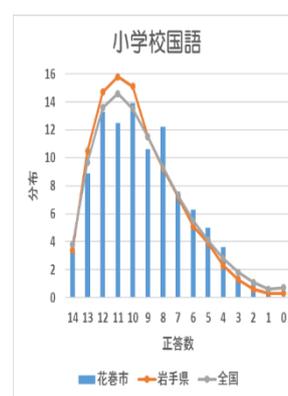
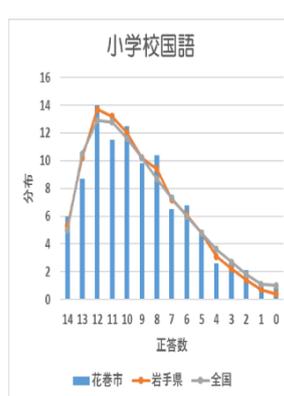
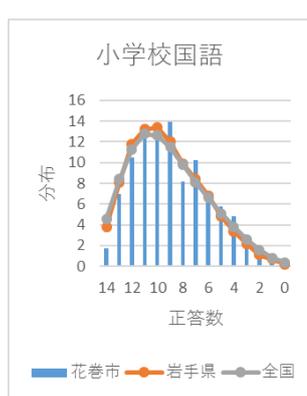
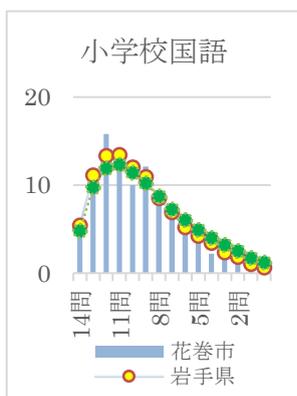
【小学校】

平成31年度（令和元年度）調査

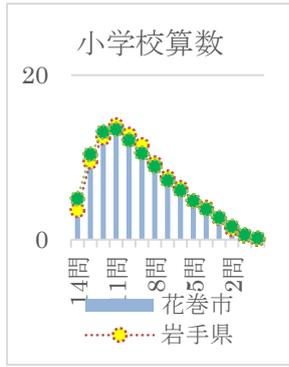
令和3年度調査

令和4年度調査

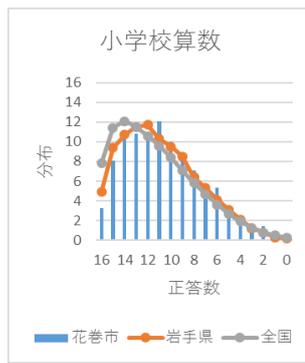
令和5年度調査



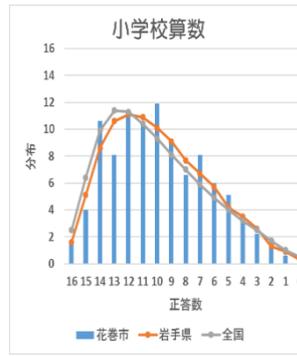
平成31年度（令和元年度）調査



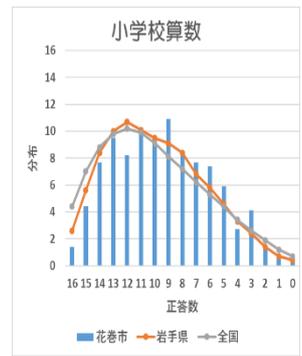
令和3年度調査



令和4年度調査

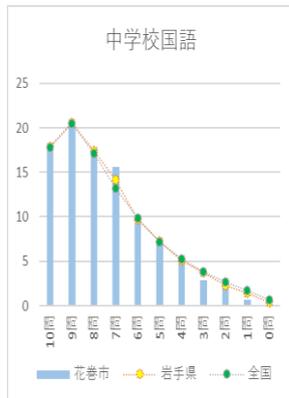


令和5年度調査

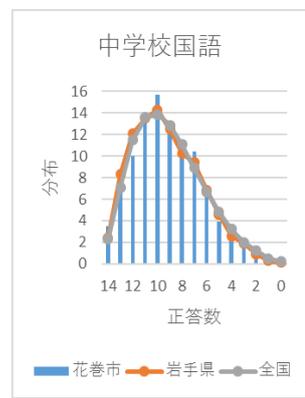


【中学校】

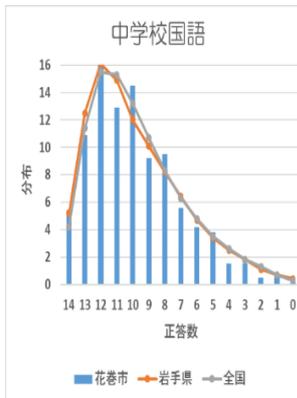
平成31年度（令和元年度）調査



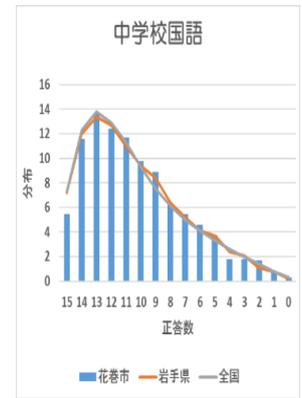
令和3年度調査



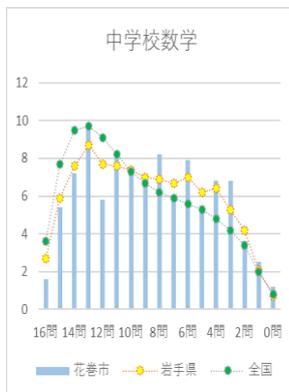
令和4年度調査



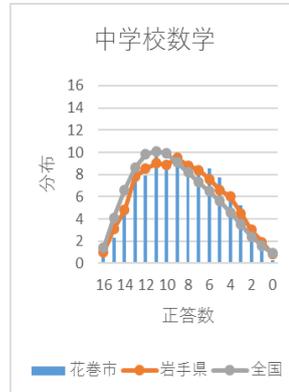
令和5年度調査



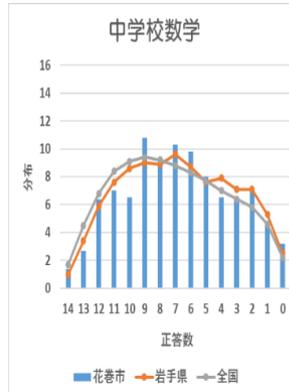
平成31年度（令和元年度）調査



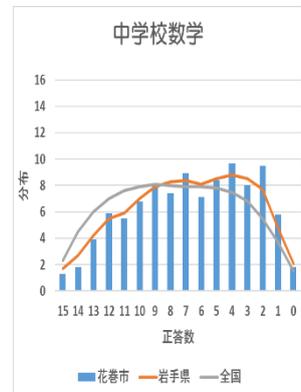
令和3年度調査



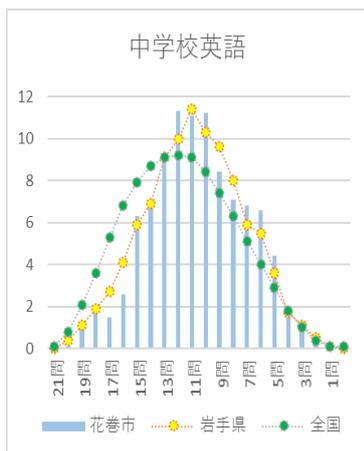
令和4年度調査



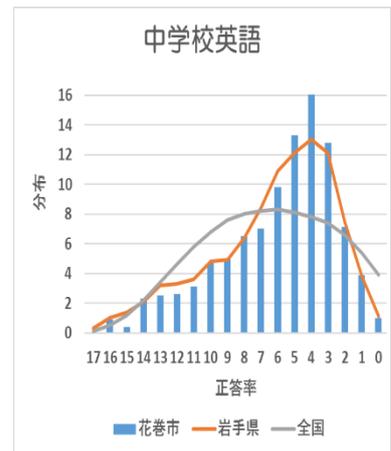
令和5年度調査



平成31年度（令和元年度）調査



令和5年度調査



>>>>>> 4年後 >>>>>>

◆ 児童生徒質問紙調査の概要

児童生徒質問紙調査は、「早寝、早起き、朝ごはん」等の基本的な生活習慣、「いじめはいけない」「将来の夢や目標を持っている」等の人としての在り様、「家で計画を立てて勉強している」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」等の学習に対する姿勢などで、**小学校で課題が散見**されるものの**中学校は全国、県に比べ大部分の項目で望ましい回答傾向**です。以下では、「過去の調査で課題があった項目」「新たな課題と考えなければならない項目」「教科調査の結果に影響すると思われる項目」に分類して考察します。

◆ 過去の調査で課題があった項目

令和3年度前々回調査で課題があった小6の平日のゲーム時間は、「スマホ等の使い方に係る家の人との約束」「SNSや動画の視聴時間」を含めて令和4年度前回調査で望ましい方向に推移しました。いずれも今回調査の質問紙項目から除外されて実態を把握できませんが、他の調査で明らかになっているとおり「平日にどのくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを利用しますか」に係る当市の児童生徒の実態は、小5が令和2年度から、中2が令和元年度から長時間利用の割合が急増し、学力低下が顕在化した時期と重なります。

岩手県学習定着度状況調査児童生徒質問紙調査「携帯電話やスマートフォンの利用時間」

スマホ等時間	小学校5年生					中学校2年生				
	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
3時間以上	7%	6%	21%	19%	28%	11%	23%	23%	27%	28%
1時間未満	78%	77%	36%	40%	31%	54%	25%	26%	21%	18%

子どもの生活、学習習慣が変わってしまったことを視野に入れ、当市の小中連携を重視したコミュニティ・スクール等に**児童生徒の自律の意識を育むことを目的として家庭・保育園・幼稚園・認定こども園を巻き込み、小・中学校と連携する取組を重視**するようお願いいたします。

● 「児童生徒のゲーム時間」（令和3年度新規、令和5年度除外）

【単位%】

令和3年度		小6			中3		
		市	県	全国	市	県	全国
平日1日当たりのゲーム時間は	2時間以上	52.8	45.1	49.7	50.3	48.9	57.0
	3時間以上	30.5	23.4	29.0	22.5	23.0	32.3
	4時間以上	15.2	11.3	15.5	12.0	10.3	16.7
令和4年度		小6			中3		
		市	県	全国	市	県	全国
平日1日当たりのゲーム時間は	2時間以上	48.6	46.9	50.2	41.6	43.8	50.3
	3時間以上	25.9	24.8	30.7	19.6	21.2	29.8
	4時間以上	13.3	11.7	17.2	9.8	9.7	16.3
令和5年度		小6			中3		
		市	県	全国	市	県	全国
平日1日当たりのゲーム時間は質問紙項目から除外		—	—	—	—	—	—

◆ 新たな課題として考えなければならない項目

今回の児童生徒質問紙調査によると、**当市の小6は「友達関係に満足しているのに、学校に行くことを楽しい**

と思えず、自己肯定感が低い」傾向にあります。児童生徒が楽しいと思える学校は、人目を気にせず生活できる生徒指導が安定した環境で、分かった、できた経験が乏しい子どもが分かった、できたと笑顔になり、分かった、できた経験が豊富な子どもは仲間と高め合いながら難しいことにチャレンジして輝く、そのような教育活動が日常的に行われる学校のように思います。学校が力を入れるべきは、子ども一人ひとりが居心地の良い人的環境を整えて、すべての児童生徒に分かった、できたを実感させる授業を提供することです。学校現場に足を運ぶと「小学校低学年の児童が以前とは違う」「学力差が大きく一斉指導が難しい」等の声が聞かれ、教職員の苦悩を目の当たりにします。だからこそ小・中学校は、「花巻市学力向上アクションプラン」に位置付ける「生徒指導の基盤となる学級・学年・学校経営の充実」「児童生徒の分かった、できたと終わる授業改善の取組」に組織的に力を注ぐよう改めてお願いします。

● 「自分にはよいところがある」

【単位%】

令和5年度	小6			中3		
	市	県	全国	市	県	全国
自分にはよいところがある 当てはまる	36.3	39.3	42.6	39.8	34.2	37.2
どちらかといえば、当てはまる	44.1	42.7	40.9	39.7	44.9	42.8
どちらかといえば、当てはまらない	13.0	12.6	11.4	12.0	14.7	14.3
当てはまらない	6.6	5.4	5.1	4.9	6.1	5.6

● 「学校に行くのは楽しい」

【単位%】

令和5年度	小6			中3		
	市	県	全国	市	県	全国
学校に行くのは楽しい 当てはまる	45.0	46.5	49.8	48.5	47.6	43.3
どちらかといえば、当てはまる	38.6	37.3	35.5	34.2	35.0	38.5
どちらかといえば、当てはまらない	11.6	11.3	9.9	11.2	11.5	12.1
当てはまらない	4.8	4.7	4.7	5.5	5.2	5.4

● 「友達関係に満足している」

【単位%】

令和5年度	小6			中3		
	市	県	全国	市	県	全国
友達関係に満足している 当てはまる	67.0	64.9	63.2	63.5	59.2	55.3
どちらかといえば、当てはまる	24.8	26.4	27.1	27.5	30.3	33.4
どちらかといえば、当てはまらない	5.6	6.6	7.1	5.5	7.2	7.9
当てはまらない	2.6	2.1	2.5	2.4	2.4	2.4

◆ 教科調査の結果に影響すると思われる項目

平日の家庭学習時間は、過去の調査と同様に、小6、中3ともに2時間以上の家庭学習時間で全国との開きが大きくなっています。令和4年度前回調査で小6、中3ともに1時間以上で全国、県を上回り、中3は2時間以上で初めて県を上回りましたが、令和5年度今回調査で再び減少傾向に転じています。改めて、児童生徒の自主的に学習に向かう意識、特に学ぶ目的意識の醸成について、家庭、小・中学校等の取組をお願いします。

全体的に望ましい回答傾向を示す当市の児童生徒ですが、教科調査で厳しい結果が出ている算数・数学の「好き」「分かる」は全国、県を下回る傾向で、特に小学校の低下は気がかりです。学ぶことの「楽しさ」「おもしろ

ろさ」を学習の成就感や学習内容への興味関心で育む指導の一層の工夫が求められます。

● 「児童生徒の家庭学習時間」

【単位%】

令和3年度		小6			中3		
		市	県	全国	市	県	全国
平日1日当たりの家庭学習時間は	3時間以上	4.7	4.6	11.6	2.8	3.6	12.3
	2時間以上	15.6	17.7	26.9	18.8	22.3	41.8
	1時間以上	69.2	73.0	62.5	72.1	69.8	75.9
令和4年度		小6			中3		
		市	県	全国	市	県	全国
平日1日当たりの家庭学習時間は	3時間以上	5.4	4.1	11.3	2.9	2.6	9.3
	2時間以上	18.3	17.6	25.1	19.7	19.1	35.2
	1時間以上	74.1	71.3	59.4	71.9	67.6	69.5
令和5年度		小6			中3		
		市	県	全国	市	県	全国
平日1日当たりの家庭学習時間は	3時間以上	3.6	4.7	11.8	2.8	3.3	9.3
	2時間以上	17.3	18.1	25.6	18.5	18.5	35.2
	1時間以上	65.8	68.4	57.1	61.4	60.6	69.5

● 「教科が好き」

【単位%】

令和3年度		小6			中3		
		市	県	全国	市	県	全国
国語の勉強が好き	当てはまる	25.2	24.1	22.7	23.6	24.9	23.5
算数・数学の勉強が好き	当てはまる	36.3	38.2	40.5	29.6	30.3	31.2
英語の勉強が好き	当てはまる	33.8	41.1	38.2	25.9	28.7	28.7
令和4年度		小6			中3		
		市	県	全国	市	県	全国
国語の勉強が好き	当てはまる	28.8	25.4	23.7	28.4	26.5	24.2
算数・数学の勉強が好き	当てはまる	36.4	33.8	36.2	26.0	28.3	29.9
理科の勉強が好き	当てはまる	49.9	53.9	49.3	33.6	38.9	32.2
令和5年度		小6			中3		
		市	県	全国	市	県	全国
国語の勉強が好き	当てはまる	23.5	25.7	23.8	25.7	26.6	23.6
算数・数学の勉強が好き	当てはまる	29.1	31.8	34.8	21.5	25.3	29.1
英語の勉強が好き	当てはまる	34.5	41.4	38.6	25.4	24.8	25.2

● 「学習内容が分かる」

【単位%】

令和3年度		小6			中3		
		市	県	全国	市	県	全国
国語はよく分かる	当てはまる	44.4	41.4	39.5	31.5	33.7	31.3
算数・数学はよく分かる	当てはまる	49.4	50.0	51.6	35.6	34.6	35.6

令和4年度		小6			中3		
		市	県	全国	市	県	全国
国語はよく分かる	当てはまる	43.9	41.1	39.5	42.6	33.8	31.9
算数・数学はよく分かる	当てはまる	43.3	43.1	45.6	36.0	36.1	36.1
理科はよく分かる	当てはまる	55.8	58.1	54.9	32.1	33.8	30.9
令和5年度		小6			中3		
		市	県	全国	市	県	全国
国語はよく分かる	当てはまる	40.2	42.9	40.4	34.3	33.1	30.4
算数・数学はよく分かる	当てはまる	40.1	42.4	45.2	26.6	30.5	33.9
英語はよく分かる	当てはまる	—	—	—	26.1	26.1	28.0

## 令和5年度 学力分析のまとめと今後の改善の手立て

### ◆ 令和5年度後半に子育て、教育に関わる皆様をお願いしたい取組

#### 令和4年度まで取り組もうとしてきたこと

##### ●児童生徒が主体的に学びに立ち向かう意識と行動を育む手立ての実践

クロス集計により学力と児童生徒の普段の生活・学習の相関を分析すると、児童生徒に主体的に学びに立ち向かう意識と行動があるほど学力向上に効果が出ています。例えば、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」「学習内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる」等です。そこで、「**花巻市家庭教育スタンダード**」(詳細は[花巻市ホームページ](#))を参考に、次の手立てを意識するようお願いいたします。

- ・ 各学校は、授業等で学習者が主体となる指導の手立てを大切にすること
- ・ 家庭や地域は、子どもの非認知能力(参考資料 花巻市教育委員会こども課「ニコニコガイド」より作成)を育み、自主自律の意識を高めることを大切にすること
- ・ 教育行政は、児童生徒、各学校、家庭や地域に情報を届け、具体的・直接的な支援を組織的に推進すること

##### ●過去の学力低下の要因を踏まえた改善の手立ての再確認

令和3年度全国学調は小6の学力が大きく落ち込み、すべての小学校を対象に緊急の調査を実施しました。その結果、学級経営や生徒指導に課題を抱える小学校が増えていたこと、やる気をなくし学習意欲が低下していた児童が増えていたこと、ゲーム時間が増加し家庭学習時間が少ない児童の割合が増えていたことが分かりました。そこで、「**花巻市学力向上アクションプラン**」(詳細は[花巻市ホームページ](#))の**三本柱**を改めて意識して取り組むようお願いいたします。

- ・ 学級・学習環境の向上
- ・ 学習者主体の授業改善
- ・ 家庭学習の抜本的改善

##### ●教育委員会として力を入れる新たな手立て

教育委員会は、「花巻市学力向上アクションプラン」や「花巻市家庭教育スタンダード」が各学校や家庭・地域に周知され、さらに取組の効果が上がるように、特に次の手立てに力を入れて取り組みます。

- ・ **子育て初期・小学校低学年の保護者の皆様に情報を届ける講演プログラムの実施**

令和3年度から始めた本プログラムは、学校・園、PTA等の希望により子育て初期・小学校低学年の保護者の皆様に実施しています。しかし、活用が極めて限定的であることから、今後、さらに呼びかけ長期的な学力向上対策として力を入れます。

- ・ **学級経営、授業力、家庭との連携を主軸とする教員個別研修プログラムの推進**

令和4年度から始めた本プログラムは、教員対象の個別研修プログラムです。学級経営、授業力、家庭との連携に課題意識を持つ教員を対象にして取り組んでいます。

今回の全国学調は、中学校数学、英語の学力の課題に加え、ここ数年小学校の学力低下が進行し、中学校数学、英語のみならず他教科にも影響、小・中学校のすべての教科で全国、県を上回ることができないかつてない厳しい結果でした。果たして「令和4年度まで取り組もうとしてきたこと」が的外した対策なのか、小・中学校の学力が年々低下し続ける光が見えない現状ですが、義務教育段階の学力が後に子どもの人生に影響を及ぼすことを考えると、さらなる解決策を捻出しなくてはなりません。

そこで、学校、家庭、地域等、子育てや子どもの教育に関わる私たちは、次のことを顧みることが重要と考えています。まずは、これらのことがそれぞれの立場のそれぞれの役割として具体的に動き出すよう、皆様のご理解ご協力をお願いします。

- ・ 現在の教育の課題が家庭、地域にどこまで周知・共有され、改善の取組が具体的に動き出しているのか
- ・ 小・中学校は全教職員が一丸となり、自校の課題解決に向けて家庭、地域と連携して邁進しているのか
- ・ 子どもを取り巻く環境の激変により良くも悪くも変容する子どもの実態に合わせ、教育施策や教育活動が変化しているのか、有効な手立てが随時見極められ具現化されているのか、それぞれの立場、役割としての取組が機能し効果が検証され活かされているのか

#### ◆ 令和5年度後半から力を入れたい学校の学力向上対策

**資料1**は現在の学力担当業務の概要です。**資料2**はその中の「令和5年度ふくろう講座」で行った2学期に学習する単元の指導略案作りを位置付けた教員研修資料の一部です。希望研修のため参加していただいた教職員等は極一部で、すべての教職員等に共有されたわけではありません。そこで、学力向上担当としては、まずは**資料2**に示す授業改善をすべての学校のすべての教員に広め実践していただけるよう努めたいと考えています。

この授業改善は「**児童生徒が主体的に学び、学習成果を実感して、学習意欲を高める**」ことを目指す取組です。なぜこの取組に力を入れたいと考えるのか、簡潔に根拠を説明します。

- ① 東京大学名誉教授の佐藤学先生は、「新しい授業崩壊」すなわち「**静かに黒板の板書を丁寧にノートに筆記し、落ち着いて学習しているように見えるが、実は何も思考していないし何も学んでいない児童生徒、授業が増えている**」と指摘しています。確かに、落ち着いて授業が行われているにもかかわらず、数学、英語を中心に学力が著しく低下し続ける市内中学校の現状を考えたとき、この指摘は本市にも当てはまるのではないかと考えられます。
- ② 少子化の影響なのか、近年は市内の進学校と呼ばれる高等学校で定員割れが出るなど、進学先を選ばなければ無理に学ばなくとも高校に入学できる環境になりました。**もしかすると、保護者のニーズの変化を含め、子どもの学びの目的意識、学びに向かう意欲が弱くなったのではないかと**考えられます。(従来から高校受験のみが学びの目的ではないはずですが……)

「指導と評価の一体化」「主体的、対話的で深い学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」、よく耳にしよく使う言葉ですが、**本当に授業展開に具現化されているでしょうか**。全国学調で把握した本市の大きな課題の解決策を各学校の教育活動にいか位置付けるのか、変化する子どもの実情や少子化など変容する環境に対応する施策をいかに行うのか、**資料2**に示す授業改善は真摯に省み向き合った現時点の当面の手立てです。

各学校には、「**小学校国語・算数、中学校国語・数学・英語の改善に向けた具体的な手立て**」と併用しながら、**児童生徒の分かった、できたで終わる授業改善の取組を推進**していただくようご理解、ご協力をお願いします。そして、**実践段階でさらによりよい手立てが見つければ、積極的に情報発信して市内小・中学校等に広め**ていただくよう併せてお願いします。

# 教育委員会は **学力向上担当年間スケジュール概要**

情報を適宜迅速正確に発信し、学校の教育活動を支援するよう行動します

花巻市ホームページ

<時期 重点>

学校

ご覧いただいていますか？

会議・研修会・学校訪問等で情報・支援を提供します

<4～5月 計画を共有し行動・実践に向かいましょう>

学力向上アクションプラン

家庭教育スタンダード

標準学力検査CRT → 県学調・全国学調経年変化

学校経営・学校運営充実に向けた年度当初学校訪問  
数学・英語家庭学習教材「Gアップシート」配布

<5～1月 改善に向けて要となる行動・実践のときです>

児童生徒・保護者・教職員対象別講話・講演・講義  
児童生徒個別学習指導・保護者個別教育相談・教職員個別向上研修  
学校経営・学校運営充実に向けた随時学校訪問  
ふくろう講座等企画運営、その他各種研修提供等  
全国学調等学力調査分析・情報提供等

全国学力・学習状況調査から見える花巻市の状況

県学調等学力調査分析・情報提供等

岩手県学習定着度状況調査から見える花巻市の状況

学力向上アクションプランの検証

<1～3月 1年間の行動・実践を振り返って次年度に備えましょう>

CRT学力分析・情報提供等  
学力保障に係る年度末評価  
学力向上アクションプラン、家庭教育スタンダード等次年度計画  
学力向上教材「Gアップシート」等更新

## 単元テストから組み立て基礎基本を定着し学習意欲を高める授業づくりー共通編ー

学力向上担当

「基礎基本を定着する授業」「多様な考えを育む授業」「主体的に学ぶ授業」等、先生方はいろいろな工夫して日常の授業実践をしていることと思います。しかし近年、花巻の子どもの学力は大きく低下し続けており、変容する子どもの実情に応じた授業の進め方に課題意識を持つ教員も多く見受けられます。そこで今回は、花巻の子どもの深刻な学力低下に歯止めをかけることを目的に、実践が浅く多忙な日常でも取り組みそうな「基礎基本を定着する授業」の進め方をできるだけ単純化して考えることにしました。ここで取り上げる学習指導過程を唯一無二と考え強制するものではありませんが、「基礎基本を定着する授業」に課題を感じている先生方には是非参考にしてほしいと思います。

### 1 「指導と評価を一体化」して「基礎基本を定着する授業」に改善

初めに、ゴール（単元テスト等の評価）から授業（学習活動の指導）をシンプルに考えてみましょう。

子どもはテストの結果が良いと満足し、先生の評価で次はもっと頑張ろうと思います。親も喜び、先生に感謝します。児童生徒、保護者、教師に信頼関係が生まれる良いサイクルです。そこで、教師は児童生徒がテストで良い結果を出せる授業にすることが大切になります。

子どもは一度の学びで分かる、できるようになることは稀で、大方は同じことや似たようなことを何度も繰り返すうちに分かる、できるようになるものです。授業、家庭学習、単元テストの問題や似たような問題を幾度も解くうちに理解が深まり、やがて基礎基本として定着します。

これらのことから、

- ① すべての児童生徒が単元テスト等に出題されている問題や類似問題を解けるようになり、分かった、できたことを確認して終わる授業展開をして、
- ② 授業で習った問題を自力で解けるようになったことを自分で確かめる家庭学習につなげ、
- ③ 時間をおいてこれらが総合的に出題されている単元テストで良い結果を得る体験を積ませる。
- ④ ①～③がスパイラルに連動する指導計画を作成して実践を継続すると、
- ⑤ やがて児童生徒は学習成果を実感できるようになり、前向きに意欲的に学習に取り組むようになります。

「指導と評価を一体化」して「基礎基本を定着する授業」に改善するためには、具体的にはこのような取組が効果的なのではないでしょうか。

### 2 「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」の具現化

次に、日常の授業でよく見られる課題について、近年の動向を踏まえつつ改善策を考えてみましょう。

「子どもの学力差が大きく、どのように授業を進めればよいのか悩んでいる」と先生方からよく伺います。また、授業参観させていただくと、最終的にすべての児童生徒が分かったのか、できたのか見取ることができない授業にも出くわします。さらに、教師が一方向的に話し続けている授業も少なからず見かけます。

初めから終わりまで教師が主導権を握る授業ばかりしては、個人差に応じた指導ができる時間は生み出せません。また、授業の中に子どもが自力でじっくり問題を解く場面を作らない限り、授業者も参観者も個々の子どもが分かったのか、できるようになったのか看取ることはできません。さらに、教師が一方向的に話す話

し続ける授業に児童生徒の主体的な学びは期待できませんし、主体的な学びが学習成果に直結するというデータにそぐわない指導法です。

これらのことから、

- ① 教師は児童生徒の考えや発言を取り上げ生かして授業を組み立てる指導技術を磨き、
- ② 児童生徒を手放しても児童生徒個々に若しくはグループ毎に学びが続く仕組みをつくり、
- ③ その時間を使って、教師（T2がいる場合はさらに効果的）は個人差に対処したり、理解に至っている児童生徒はさらに難しい問題にチャレンジしながら一人学びや学び合いを続けたりし、
- ④ 授業終盤では、すべての児童生徒が分かった、できたに辿り着いたことを確実に看取って、
- ⑤ 児童生徒が家庭で行う自主的自立的学習につなげます。

近年強調される「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」の具現化は、このようにして行うのではないのでしょうか。

### 3 「学習意欲」と「居心地の良い人的環境」「分かった、できたで終わる授業」

さらに、子どもの学習意欲を持続する手立てについても考えてみましょう。

教師は児童生徒、保護者、同僚や上司との関係が良いと心が軽くなるように、子どもも親、先生、友人や先輩との関係が良いと気持ちが安定してやるべきことに集中できます。学級、学年、学校経営においては、日頃から子ども一人ひとりをかけがえのない存在として大切にし、子ども一人ひとりが居心地の良い人的環境を整える生徒指導が基盤と心得なければなりません。

生活科に代表される経験単元に対し、大部分の教科の教材単元は内容ありきで進行します。教師主導に陥りやすく子どもの学習意欲を削いでしまう危険に留意しなければなりません。児童生徒の学習意欲は自らの力で分かった、できたときに最高潮に達すると考えられることから、我々が大切にしなければならないことは、繰り返しになりますが、すべての子どもに分かった、できたを実感させる授業を提供することです。

これらのことから、1時間1時間の授業では、次のことを確認してほしいと思います。

- |       |                                      |   |
|-------|--------------------------------------|---|
| 【はじめ】 | ・ 授業では分からない、できない児童生徒を主役に位置付けているか     | □ |
|       | ・ 児童生徒は何が分かり、できるようになればよいのかつかめているか    | □ |
|       | ・ 一斉指導、学び合いの場が、理解力に劣る子を巻き込んで展開されているか | □ |
| 【なか】  | ・ 一人学びの場が確保され、一人学びの時間は十分にとられているか     | □ |
|       | ・ そこでつまずいている子への支援は、偏りなく行き届いているか      | □ |
|       | ・ 分かった、できた子は次の問題にチャレンジし、互いに高め合っているか  | □ |
| 【おわり】 | ・ 確かめ問題が適切に設定され、確かめの時間が十分に確保されているか   | □ |
|       | ・ それを使ってすべての児童生徒の分かった、できたを確認しているか    | □ |
|       | ・ 児童生徒の家庭学習をつくり、学習習慣を育む手立てはとられているか   | □ |

児童生徒の「学習意欲」は、「居心地の良い人的環境」を基盤とする「分かった、できたで終わる授業」から生まれると考えられます。

皆さんは日頃同僚や上司に大切にされていると感じていますか。機嫌が良い人とそうでない人とどちらの人が好きですか。学校が楽しいと思いついでいますか。これらの感じ方はきっと子どもも同じです。**教師が行きたい学校は、児童生徒も行きたい学校に違いありません。**そしてその土台は、誰もが人目を気にせず生活できる生徒指導が安定した環境で、分かった、できた経験が乏しい子どもが分かった、できたと笑顔になり、分かった、できた経験が豊富な子どもは仲間と高め合いながら難しいことにチャレンジして輝く、そんな授業が日常的に行われている学校のように思います。

学習指導略案（例）

学年（ ） 教科（ ） 単元（ ） 時限（ / ）

段階	児童生徒の学習活動	教師の指導・支援・評価	時間
はじめ	問題提示・課題設定	発達段階に合う表現	5
なか	一人学び・学び合い  問題・課題解決  適用・一般化 (必要に応じて一人学び・学び合い)	児童生徒の思考に沿いつつ、教えなければならないことはしっかり指導  すべての児童生徒  場面、状況、数値を代えて適用・一般化	15
	問題等演習 児童生徒の習熟に応じ個別指導・個別学習 基礎基本でつまずいている子への支援・指導 基礎基本をクリアしている子は主体的学習 問題作りにも挑戦させてみては	事前に基礎→発展問題等を用意 主体的対話的で深い学び 個別最適な学び 協働的な学び	15
	基礎基本定着確認テスト 自力解決の力が身に付いたか 必要に応じ学び直し	指導と評価の一体化 単元テスト等の問題を活用して、児童生徒個々に基礎基本の定着状況把握	5
おわり	自力解決・チャレンジ問題への意欲	宿題・自主学習課題提示	5